**L1**

# 手話言語の記述：<br>ろう者による内省と言語記述分野での最善慣行の適用

**ジュリー・A・ホクゲサン**
（ギャローデット大学［アメリカ］）

要旨

本発表は、これまで行われた手話言語の記述研究を、ろう者である手話言語使用者の視点を通じて、とりわけ方法論的な立場から概観し、そこから得られる教訓を提示する。その上で、得られた教訓に基づき、発表者が自らの言語記述研究において利用している三つの道具立を紹介する。すなわち、ろう者の手で作られた倫理基準（「手話言語コミュニティ参照条件」）、提示の方法（たとえば語釈を最低限にとどめる等）、そしてオープンアクセス（たとえばデータ引用に関するオースティン原則）である。発表者の実際の言語記述研究の事例を論じる。記述対象となるのは発表者の言語であるアメリカ手話およびそれ以外の手話言語である。本発表での議論の対象となるプロジェクトとして、ギャローデット大学でのフィールド調査法の授業や、ハイチ手話記述プロジェクト（LSHDoP）、SLAAASh、アメリカ手話サインバンク、フィラデルフィア手話プロジェクト、さらに発表者がさらに最近になって行なっているギャローデット大学アメリカ手話記述（GUDA）、DEAF DIVA などがある。